

いのちをつなぐ

Automated External Defibrillator AED

AEDは今年で10年

突然、心臓が止まって倒れたとき、その人の命は、その場に居合わせた人の迅速な行動にかかっています。

あなたが救命手当の知識や技術を身につけ、少しの勇気を出せば、もしかしたら、かけがえない命をつなぐことができるかもしれません。

問合せ先 市消防署本署救急救助グループ
(☎56・2110)



◀子育て支援センターふくなんで開催された普通救命講習会

AED（自動体外式除細動器）は、心臓が止まったときに電気ショックを与えることで、正常な心臓の動きを取り戻すことができる医療機器です。平成16年7月、一般の人にAEDの使用が認められてから、今年で10年を迎え、世界的にも認知度がかんり高まってきています。

しかし「使い方が分からない」「使うべきかどうか判断できない」「使う自信がない」などの理由から、AEDが実際に使用される件数は、非常に少ないのが現状です。

生存率と救命の可能性

総務省によると、平成24年に、一般の人が他人の心肺停止に遭遇し、除細動を実施した（AEDを使用した）例は、2万3797件中881件とその実施率はわずか3・7%にとどまっています。また、AEDが使用された場合の生存率が41・4%、社会復帰率が36%なのに比べ、AEDが

使用されなかった場合の生存率が10・3%、社会復帰率が6・1%という結果も出ています。この数字から見ても、AEDが使用されることにより、救われる命がいかに多いかが分かります。

119番通報してから救急車が現場に到着するまで、全国平均で約8分かかります。心肺停止で倒れて、現場に居合わせた人が4分以内に心肺蘇生を開始した場合、救命の可能性は50%に、3分以内であれば、その可能性は75%になるといわれています（次ページのグラフ参照）。

連係プレーで救われた命

平成26年1月26日、一色町で開催された第49回一色マラソン大会での出来事です。

ランナーとしてハーフマラソンに出場した60代の男性が、ゴールの約500メートル手前で倒れました。近くを走っていた別のランナーが慌てて駆け寄ると、男性の意識はなく、心肺停止の状態であったため、胸骨圧迫（心臓マッサージ）を行うとともに、他のランナーや大会ボランティアに応援を要請しました。すると、救護所に用意されていた

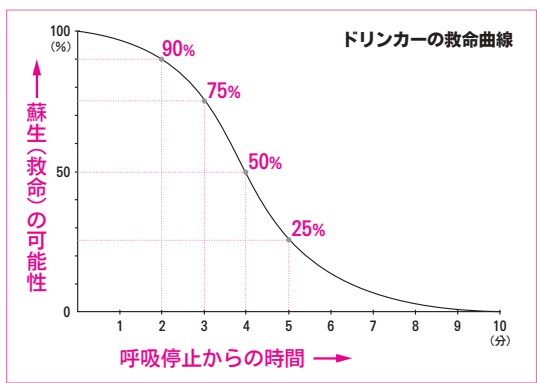
AEDが、連係プレーで現場に素早く届けられ、男性に救命措置が施されたことにより、救急隊の到着前に、男性は息を吹き返すことができました。救命活動に携わった方の中には、偶然にも、昨年末に会社で普通救命講習を受けたばかりの方もおり、まさにその経験が生かされたのです。



星野崇嘉さん（東幡豆町）

一色マラソン大会で実際に救命活動に携わったランナーに聞きました

自分の役割は、AEDを運ぶことと電気ショックのボタンを押すことでした。ハーフを走り終えた後で疲れていましたが、助けを求める声を聞き、そのときは、もう夢中でAEDを持って走りました。幡豆町消防団在籍時や現在加入している防災ネットワークはずの救命講習会で、AEDの取り扱いを身につけたことが役に立ったと思います。



←時間の経過とともに救命の可能性は低下します

使用手順はとっても簡単

AEDの使用手順は、次の3つしかなく、とても簡単に使用することができます。

最初にふたを開け、電源を入れます(ふたを開けると自動で電源が入る機種もあります)。あとは、音声ガイドに従い、操作をするだけです。

① AEDのふたを開け、電源ボタンを押す



電源ボタンを押すと「パッド(電極)を装着してください」などの音声がかかります。② 心臓を挟むようにパッドを貼り、ケーブルのコネクタを本体に差し込む



パッドを貼り、コネクタを本体に差し込む(差し込む必要のない機種もあります)と、機械が心電図を解析し、電気

ショックが必要であると判断されると「ショックが必要ですよ」などの音声流れ、自動的に充電が始まります。電気ショックの必要がないと判断されると「ショックは不要です」などの音声流れます。

充電が完了すると「ショックを行います。離れてください」などの音声流れ、自分を含め、誰も傷病者に触

れていないことを確認します。③ ショックボタンを押し、電気ショックを加える



電気ショックが完了した後、すばやく、胸骨圧迫を再開し、次の音声ガイドを待ちます。

資格は必要ありません

AEDを使用するのに、特別な資格は必要なく、講習会などを受けていなくても誰でも使用することができます。

また、日本では、一般市民が善意で実施した救命手当てについて、その結果の責任を法的に問われることはないと考えられています。

AEDはじつに多いです

市では、平成16年度から段階的に整備を進め、平成26年6月現在、市役所や各支所をはじめ、市内の全ての小・中学校、一部のふれあいセンターやスポーツ施設など、市の管理する施設157か所にAEDを設置しています。

公共施設以外にも、市内には民間の医療機関や商業施設、工場などに多数設置されており、そのうち35か所が、県の



▲西尾救命ステーションの標章

「あいちAEDマップ」というAED設置場所閲覧システムに登録されています。また、AEDが設置してあり、AEDの取り扱いなどを習得した従業員が在籍する28の事業所を「西尾救命ステーション」として認定し、登録しています。



▲日ごろからAEDが設置されている場所を確認しておく、いざという時に役立ちます

普通救命講習会に参加しよう

- 対象 市内在住または在勤の方
- 日時 8月30日(土) 午前9時～正午
- 場所 市消防署一色分署大会議室(3階)
- 内容 心肺蘇生法(AEDを含む)、止血法、その他の応急手当など
- 定員 15人(先着順)
- 受講料 無料
- 申込・問合せ先 8月1日(金)から、直接または電話で市消防署一色分署(☎72・2110)へ。
- その他 応急手当などの詳細は、市ホームページでも閲覧できます。

市消防署では、5人以上の団体や事業所などからのご要望により、普通救命講習会を随時開催しますので、ぜひご相談ください。詳しくは、市消防署本署救急救助グループ(☎56・2110)へお問い合わせください。